

も、興味関心が高いと予測された内容が優先的に表示される仕組みになっています。動画配信サイトでもサイトを開くと、過去に閲覧した内容に基づいたおすすめ動画が表示され、さらに、動画を視聴後、おすすめ動画が連続再生される機能もあります。

興味関心のある情報が表示されるため、興味関心のある内容を深められる利点があります。しかしながら、このことは、逆に、興味関心の幅が狭められてしまう懸念があるとも言えます。

また、調べた内容に近い情報がおすすめされる仕組みになっていることから、その情報に深入りしてしまうことも考えられます。これは、利点でもありますが、不安がある要素を調べた際に次々と不安要素が表示され、ストレスを抱えてしまう可能性もあることも否定できません。検索履歴を削除することで、おすすめの内容をリセットすることができるところもあります。適宜、リセットすることを場合によっては検討する必要があるでしょう。

(3) 買い物や支払いが手元でできる時

スマートフォンを使用して買い物ができるコード決済等が身近になってきました。現金は、様々な種類の紙幣や硬貨があり、その組み合わせにより所持金の計算や、買い物した際の支払額の選択、お釣りの計算などが求められます。二〇二四年七月には、新しいお札に改刷されることもあり、現金は変化もし、現金を使用した買い物には様々なスキルを必要とします。また、置き忘れや、紛失、盗難などの心配もあるでしょう。キャッシュレス決済では、お金は数値情報に置き換わり、お釣りの計算も自動でされ、お小遣い帳の代わりになりうる支払い履歴機能もあります。現金を使用するための一部のスキルが難しい場合も、キャッシュレス決済では買い物ができる可能性が増えたと言えます。そのため、今後の買い物学習は、お釣りの計算や、現金を数える練習から、お使いで頼まれたものを購入する方法や、何が欲しいのか、購入するためにはどのようにお金を貯めたらよいのか、今使える金額はどのくらいなのかなどの、お金を管理したり使用したりする力が必要になってくると考えます。

3 SNSに関する教材開発と授業実践

「北海道大学情報基盤センター萌芽型共同研究」において、「実践事例創出型による情報モラル教育に関する指導プログラム」の検討（令和四年度）、「実践事例創出型による情報モラル教育に関する教材の在り方（令和五年度）」を実施し、SNSに関する教材開発を行いながら特別支援学校における授業実践を行ってきました。授業内容は、二名の実践された先生方に事例提供していただきました。

実践事例1「チャットアプリを使った情報モラル指導」

北海道星置養護学校ほしみ高等学園
教諭 小林義安

本校における情報モラル指導に関しては、安全性を重視するあまり「禁止」「抑止」を基本とする否定的な指導が中心と考えられました。本実践では、学習指導要領における「主体的・対話的かつ深い学び」を実現する環境下で、「自ら考え主体的に行動する生徒」を目指して、自